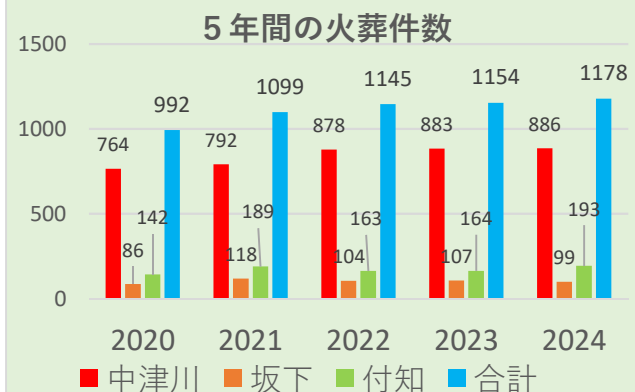


メモリアル施設の整備について

◆斎場の現状と新施設の必要性

現在、中津川市には3つの斎場があります。中津川(築50年)・坂下(築64年)・付知(築36年)で稼働しています。どの施設も老朽化により、「火葬時間が長い」「待合室で安らげない」「恵那斎場を利用」など、ご遺族の方々にはご不便をお掛けしているところです。人生の終焉の場所として、利便性が良く、快適で心安らげる施設を早期に建設する必要があります。

現中津川斎場



◆これまでの取組み

新斎場の建設候補地選定については、2009年より検討をはじめ16年が経過しています。

これまで、新火葬場建設検討委員会設置（外部委員構成）に始まり、「区長会への候補地受け入れの同意願」、そして「市から苗木地区への選定地の申し入れ」を行ってきました。いずれの手法も最終候補地を決定するまでには至りませんでした。

2022年7月に、苗木地域からの選定を断念し、選定に大変苦慮している状況です。

◆3地域からの候補地（案）選定経緯

2024年1月に小栗市長就任。公約に「斎場老朽化問題の早期解決」を掲げました。

これまでに市民の方から中津・苗木・坂本で11か所の土地情報の提供があり、市が検討した現中津川斎場周辺等を含め合計14か所から調査をはじめました。

2024年5月には、市役所内部に副市長を中心に関係部長で構成する「メモリアル施設候補地選定部会」を設置し、候補地選定条件と評価内容による検討を7回実施しました。

評価内容は「地域性」「環境性」「経済性」の項目を点数方式で行い、点数の高い3か所、現中津川斎場周辺・上平地域・辻原地域を候補地(案)に選定しました。

基準評価点とは

◆地域性

・住民の皆様、地権者様のご理解

◆環境性

・道路・交通
・地域に与える環境的影響
・法的規制

◆経済性

・既存ライフラインの有無
・造成費の容易
・用地測量補償費の容易

■辻原地域選定の経緯

選定した坂本地区の上平地域と辻原地域において、地域勉強会・視察会・検討委員会を開催することができました。この2か所の地域から令和7年3月、誰もが身近なところには建設してほしくない施設ではあるが、条件付また将来の地域づくりのためであればと「地域の願いと要望書」が提出されました。これまでの取り組みと要望書の内容を、選定部会で議論し取りまとめ、市長決断のもと最終候補地の1カ所を辻原地域に選定しました。

■辻原地域選定地



◆新斎場（案）整備概要

区 分	規模・数量
敷 地 面 積	10,000㎡以上
施設延床面積	2,300～2,500㎡
燃 焼 炉	5基
動 物 炉	1基予定
待 合 室	4室
告 別 室	2室
収 骨 室	2室
霊 安 室	1室
駐 車 場	普通車 約50台 マイクロバス3台

■選定理由

- 【地域性】＝心情的に受け入れられない意見もある中、農業後継者への不安や農地荒廃など、将来に対する辻原地域を活性化してほしい区民の切なる願いに応えていきます。
- 【環境性】＝二車線道路沿で市内葬儀場から40分以内での移動が可能であること。
- 【経済性】＝ライフラインが整備され造成が容易で地形的に立地しやすいこと。
- 【将来性】＝リニア中央新幹線ガイドウェイ資材置場の今後の利用を含め、坂本北部一帯の田園地域を将来どのようにしていくかを、地域の皆様と一緒に考える官民連携の事業を進めます。

■今後の進め方

- ・市に提出された「火葬場候補地への思い」と「辻原地域の将来への願いと要望」の内容について、辻原地域の皆様と中津川市で話し合いを行い双方納得したうえで、「基本合意協定書」を締結して決定したいと考えています。
- ・メモリアル施設は斎場と公園を併設したものを計画していますが、レイアウトなどは辻原地域の皆様と一緒に進めてまいります。また、ご理解いただくため他市の先進地視察を計画します。
- ・令和12年度の供用開始を目指して取り組みます。